

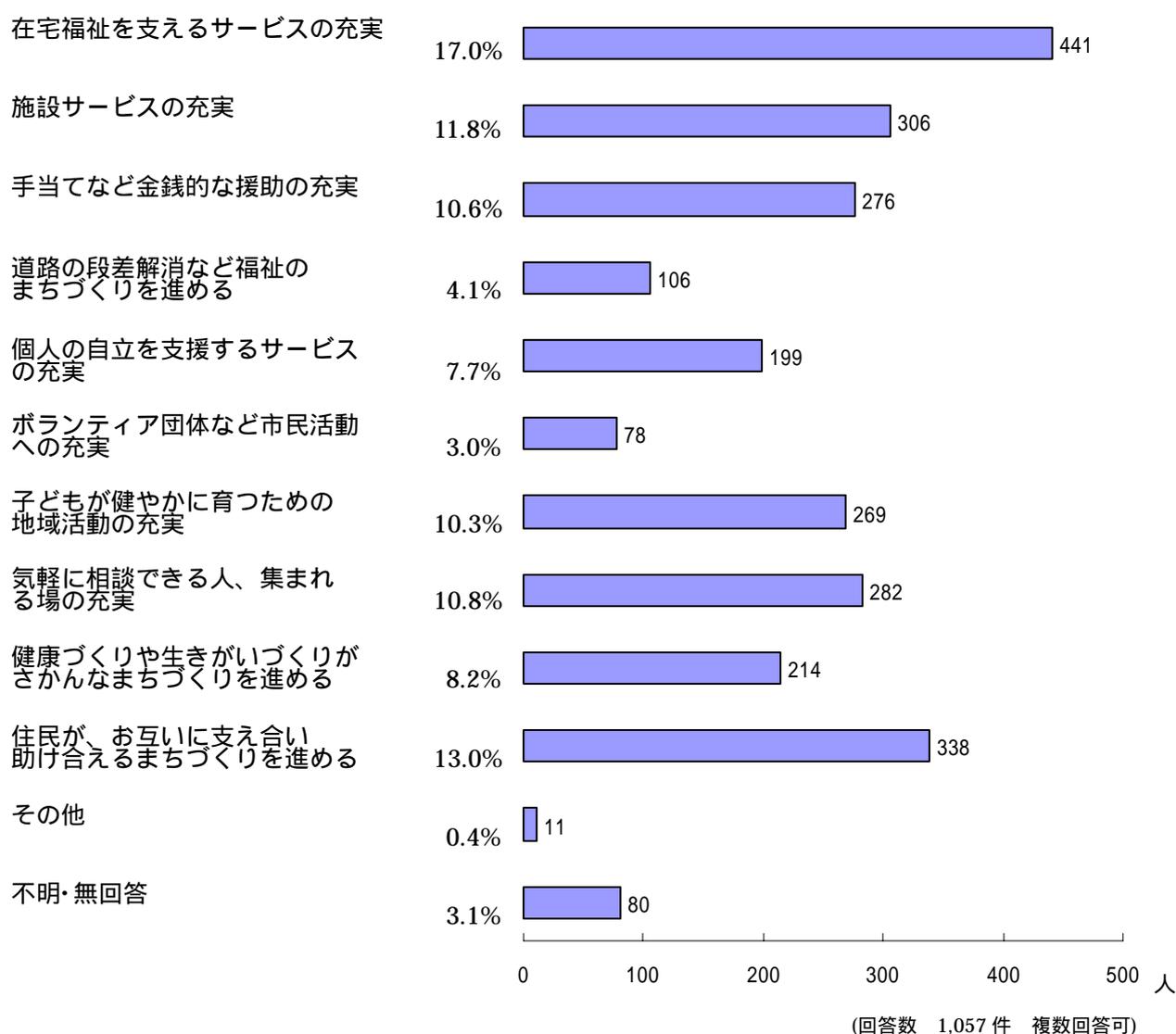
2. 地域福祉の現状と課題

地域福祉の現状を把握するために行ったアンケート調査や地域福祉懇談会などから、本市におけるさまざまな地域福祉の現状と課題が明確になりました。

まず、アンケート調査による「福祉のあり方」については、次のとおりで「在宅福祉サービスの充実」が17.0%で最も多く、次に「住民がお互いに支え合い助け合えるまちづくりを進める」「施設サービスの充実」「気軽に相談できる人、集まれる場の充実」となっています。

(アンケート調査より)

図表 「福祉のあり方」について



京丹後市は広域であり、各地区の抱える現状と課題には違いがありますが、アンケート調査や地域福祉懇談会の内容から、京丹後市の福祉の現状と課題を分類すると次のようになります。

(1) 地域で助けあえる担い手がほしい

現状

地域福祉活動においては、多くの地域住民がボランティアとして参加しており、ボランティアの登録数は、近年は下記のとおりとなっています。

社協事業報告書より社協登録ボランティア数

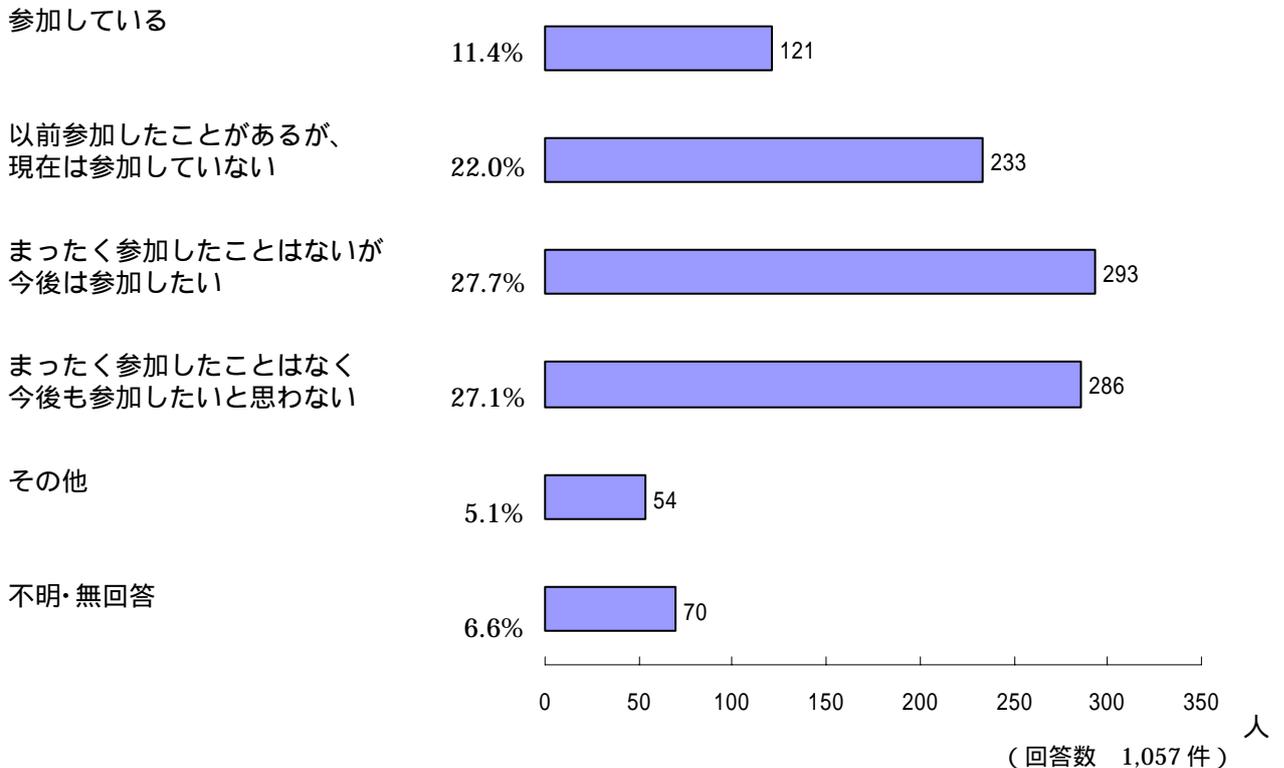
	平成 15 年度末	平成 16 年度末	平成 17 年度末
一般	2,052 人	2,377 人	2,197 人
		323 人 (災害)	160 人 (雪おろし、雪すかし)
合計	2,052 人	2,700 人	2,357 人

市民の意識をアンケート調査で見ると、ボランティアへの参加状況では、現在又は過去にボランティアの経験がある人は 33.4%、経験はないが今後ボランティア活動への参加意欲がある人は 27.7%となっています。

一方、参加したことがなく、今後も参加したいと思わないという人も 27.1%となっています。(下表参照)

(アンケート調査より)

図表 「ボランティアへの参加状況」について

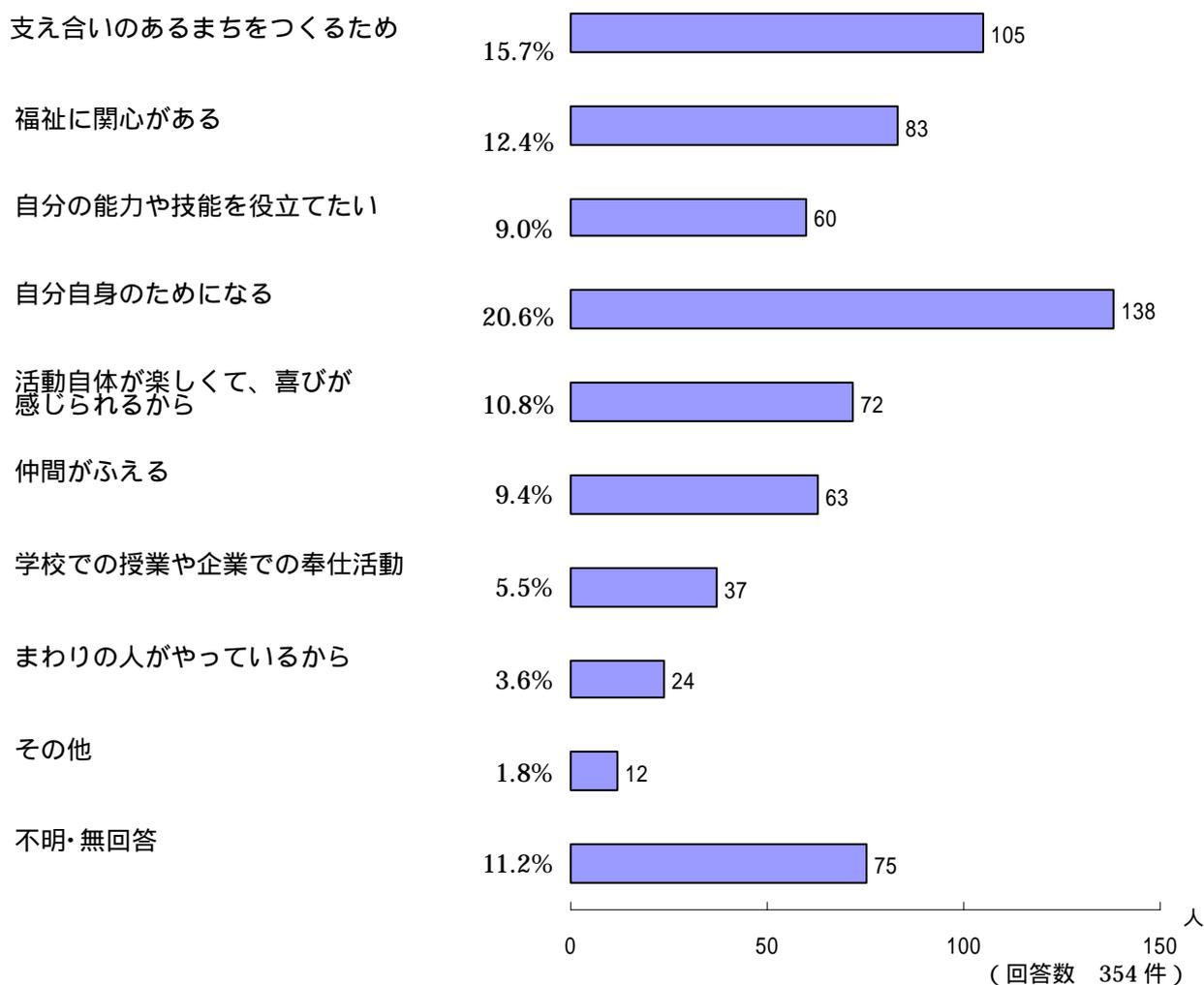


現状

ボランティアに参加している（したことがある）理由としては、「自分自身のためになる」が最も多く、次に「支え合いのあるまちをつくるため」「福祉に関心がある」「活動自体が楽しくて、喜びが感じられるから」となっており、大いなる社会貢献精神とそれに基づく充実感が主な理由となっています。（下表参照）

（アンケート調査より）

図表 「ボランティア参加への理由」について



・ また、ボランティアの参加意欲があっても、どんな事をどの様にするのか活動のやり方がわからないし、情報が欲しいという意見もあります。

課題

誰もがボランティア活動に参加できるよう工夫し、情報発信についても充実を図り、参加したいと思わなかった人も進んで参加できる体制を整えることが課題です。

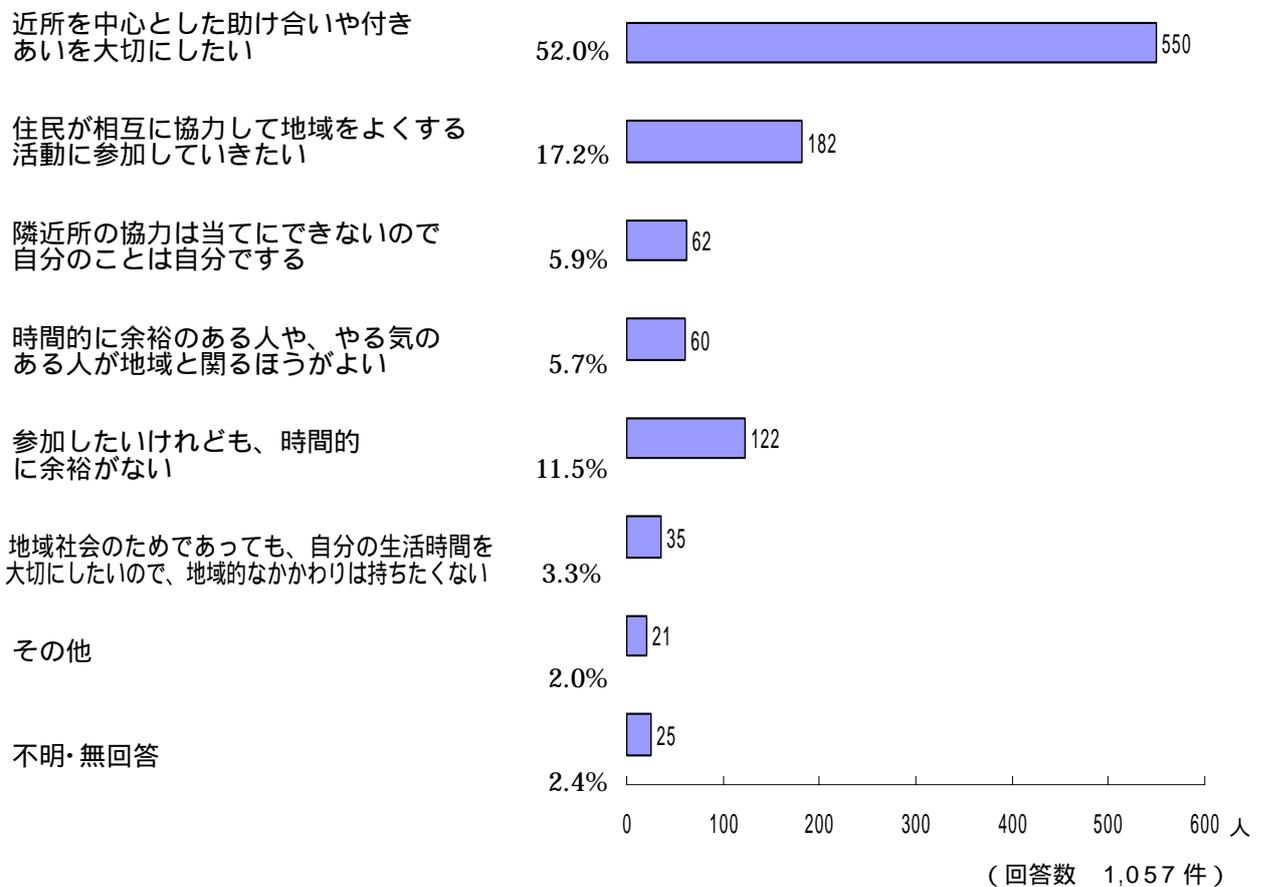
(2) 住民交流を図り、地域の付き合いを深める

現状

アンケート調査による「地域での人と人のかかわり」については、次のとおりで、「近所を中心とした助け合いや付き合いを大切にしたい」が52.0%、「地域活動に参加していきたい」17.2%となっており、地域を大切に、活動にも参加したいと、非常に高い意識を持っているという結果が出ています。（下記参照）

（アンケート調査より）

図表 「地域での人と人のかかわり」について



（懇談会より）

- ・ 近所付き合いが希薄になってきている。
- ・ 独居・高齢者世帯・認知症の方などに対して、隣近所の見守り、声かけが必要。
- ・ 隣組・区の組織に加入していない世帯があり、孤立しがちな人がいる。

課題

近所付き合い、住民の交流、地域活動等は、地域福祉の取り組みを進める上で活動の土台となるものです。近所付き合い、地域の助け合いなど、プライバシー保護に配慮しながら、今後一層の交流の拡大を図り、顔見知りの関係を広げていくことが課題です。

(3) 地域 みんなが福祉の大切さを理解する

現状

地域社会に関心の薄い人が増えています。また、核家族化の進行などにより、高齢者と暮らす経験のない子どもが増えています。地域では、高齢者、子ども、障害のある人や外国人などさまざまな人たちが生活していますが、相互の情報交換や交流の場が少ないことにより、お互いの理解が進んでいない状況がみられます。

(アンケート調査の自由記入欄より)

- ・ 住民の一人ひとりの意識を変えていかなければ組織や拠点を充実させても十分ではない。まずは、地域の支え合いが必要であることをわかってもらうことが大切であると思う。
- ・ 本市の子ども一人ひとりが、今後を担う大切な宝です。子どもたちが心身ともに健全に成長することを願っています。そのために市政も重要であるが、常日頃から、隣人、自治会などの身近な地域の方々との交流が大切であると思う。
- ・ 以前は、近所付き合いがたくさんあったが、今は、あいさつもできない大人が多すぎる。その中で育っていく子どもも同じ……。助け合いをする前に、一人ひとりがもっと成長しないといけない様な気がする。
- ・ 私が住んでいる地区は、大人なのに仲間はずれにしたり、人の悪口を楽しんで言ったり……。そういう人がたくさんいます。そんな大人が地域を守っていくのは難しいと思う。
- ・ 地域の人との付き合いや、助け合うことの必要性・重要性が意識できるよう、一人ひとりが思うようになることが大事なことだと思う。若い人もいつか老人になるし、人の助けが必要になる時が必ず来ることを自覚するよう教える。

課題

ふれあい豊かなやさしい地域づくりのためには、制度やサービス、施設を充実させることに加え、人権尊重の意識をもつ人を育てることが最も重要です。

子育てや介護の問題の解決をはじめ、高齢者や障害のある人などに対する偏見・差別などを解消する「心のバリアフリー」(用語解説4)を継続的に推進し、思いやりのある地域社会をめざすことが課題です。

だれもが地域を構成する一員であると認め合い、一人ひとりが同じ地域住民として受け入れられるような地域づくりを目指すことが重要です。

幼少年期から地域でのつながりの意識を持つよう、さまざまな出会いや交流の機会をつくることが大切です。

(4) 災害時の不安解消や緊急時の対応が大切

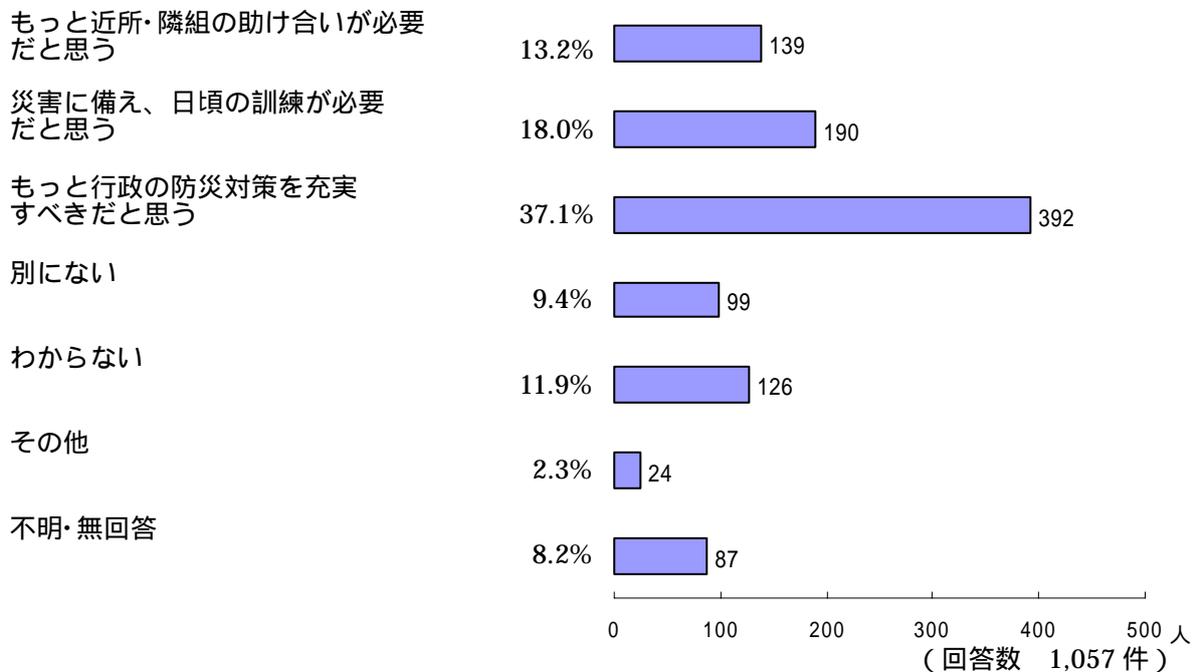
現状

高齢者のひとり暮らしや障害のある人は、日常生活の不安に加え、地震・台風・水害などの災害時に対し非常に不安を持っているという声が出ています。

アンケート調査から、「災害時、地域において何が一番必要だと思いますか」について、「行政の防災対策を充実すべき」が最も多く、次に、「日頃の訓練が必要」「近所・隣組の助け合いが必要」となっています。(下表参照)

(アンケート調査より)

図表 「災害時、地域において何が一番必要だと思いますか」について



(懇談会より)

- ・ 独居・高齢者世帯・弱者に対して、緊急時の区としての対応のあり方を考えなければならない
- ・ 大雪の時、屋根の雪おろし、雪かきなどの対応が必要

課題

地域福祉懇談会の中でも意見としてありましたが、高齢者や障害のある人の不安を少しでもなくするためには、災害時や緊急時などの声かけや援助を行なう事が大切であり、そのために隣近所や地域の果たす役割は重要です。

ひとり暮らしの高齢者や障害のある人などに緊急時に対応できるよう地域と社会福祉協議会及び行政が連携していくことが課題です。

(5) 地域の防犯を強めたい

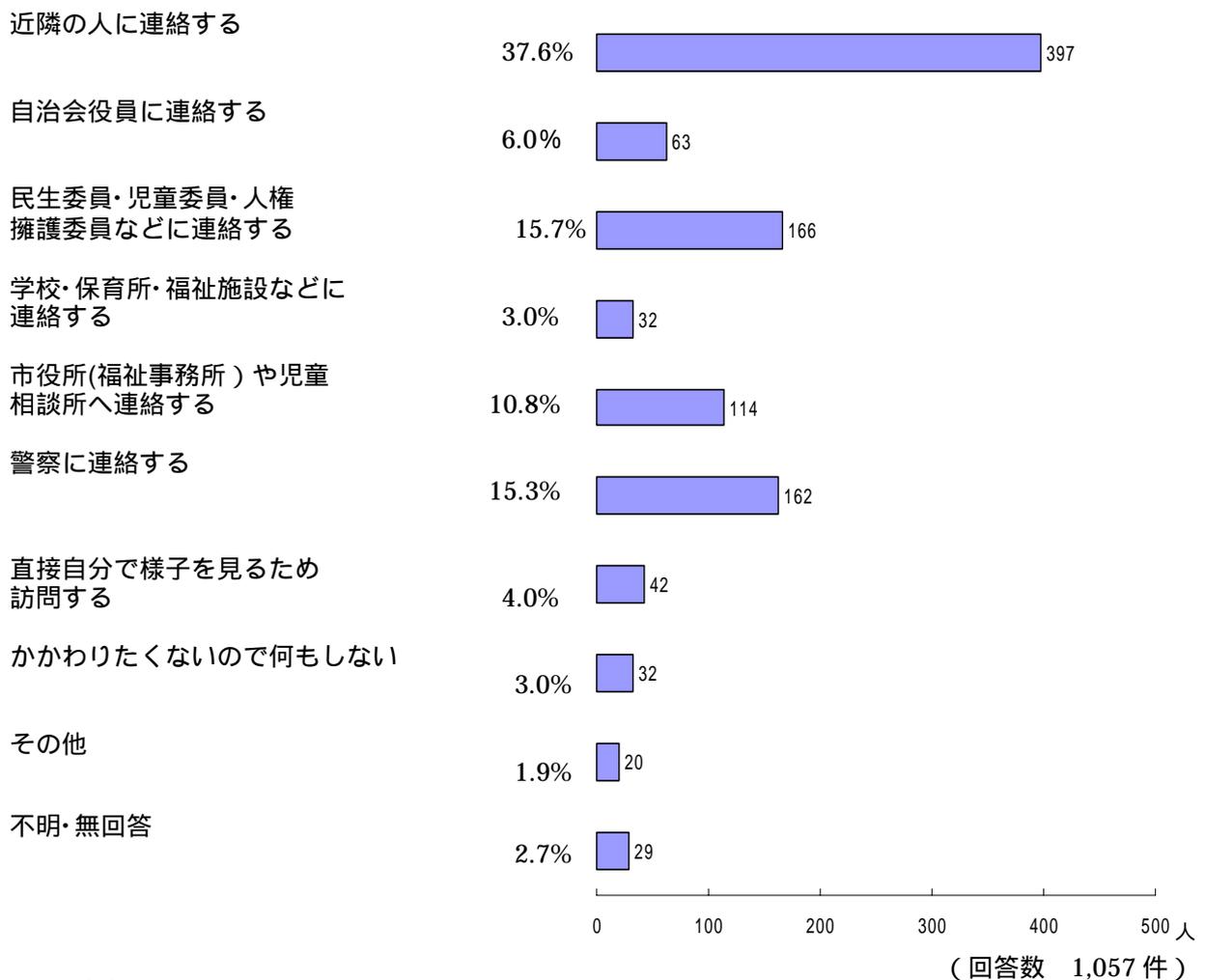
現状

全国的に多発している児童の誘拐や殺傷事件、独居老人や高齢者世帯等に対する振り込め詐欺事件や訪問販売などによる悪徳商法関連の被害が発生しています。

アンケート調査から、「もしあなたの周囲で事件・事故が起きる恐れがある場合、どう対応しますか」について、「近隣の人に連絡する」が最も多く、次に「民生児童委員・人権擁護委員などに連絡する」「警察に連絡する」となっています。防犯対策には、一番身近な隣近所・地域の力が必要となります。(下表参照)

(アンケート調査より)

図表 「防犯・事故等の対応」について



(懇談会より)

- ・ 田舎でも、いろいろな事件が起こっており、治安対応が必要。

課題

子どもの見守り、治安に対する不安、地域の防犯力の低下など、それぞれの地域における防犯対策が必要です。

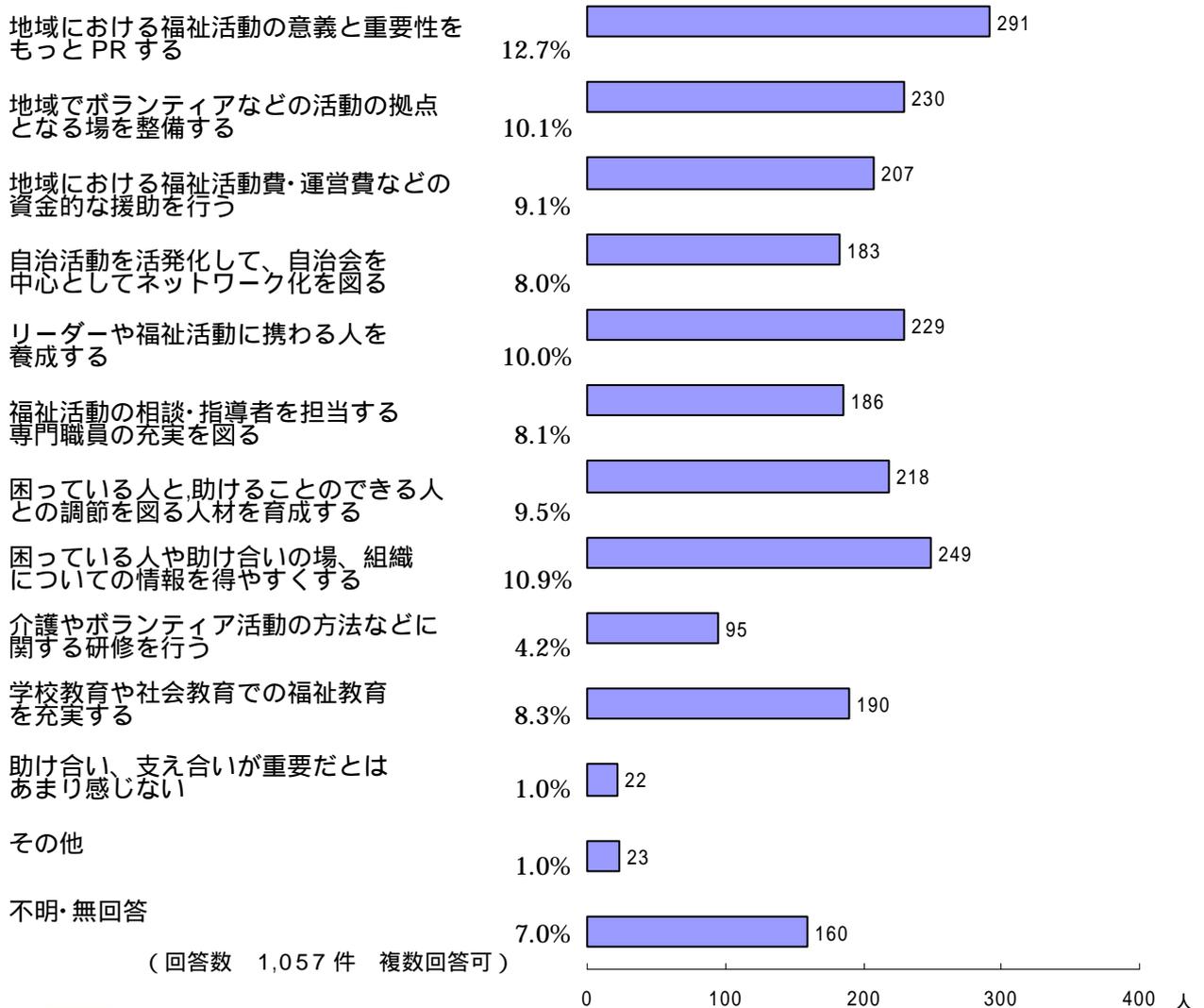
(6) わかりやすくきめ細やかな情報がほしい

現状

アンケート調査によると、地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要であるかについては、「福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が最も多く、次に「困っている人や助け合いの場、組織についての情報を得やすくする」となっています。(下表参照)

(アンケート調査より)

図表 「地域の助け合い活動を活発にするために重要なこと」について



課題

福祉に関する情報は、活動を行なううえで必要なものとなります。

福祉サービスを受けたいがどこに相談したらよいのかわからない人、また、サービスの存在すら知らない人、適切なサービスの利用ができていない人などは、情報が不足していることが考えられます。地域と行政、専門機関などが連携して、きめ細かい情報提供や支援体制を整えることが課題となっています。

(7) 満足いく福祉サービスのための支援体制が必要

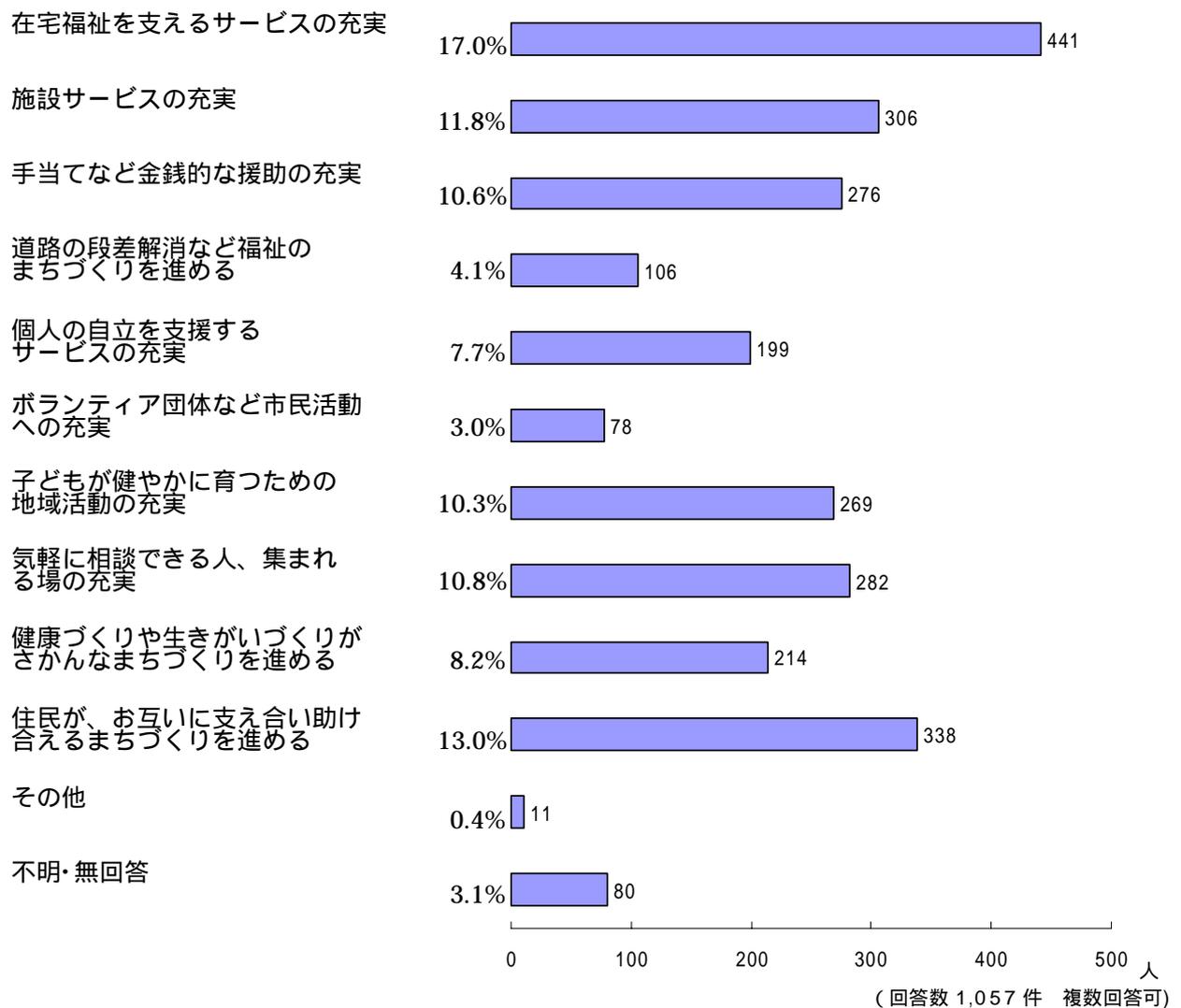
現状

アンケート調査から、在宅福祉サービス、施設サービス、自立支援サービスなどの充実が望まれています。(下表参照)

在宅福祉サービスや施設サービスなどさまざまな福祉サービスを必要とする人に、適切にサービスが受けられるような仕組みづくりが必要です。

(アンケート調査より P8 の再掲)

図表 「福祉のあり方」について



課題

福祉サービスが今まで以上に行き届くために、支援が必要な方に質の高いサービスやきめ細やかな内容の充実を図ることは必要ですが、サービスを必要とする人が利用しやすいよう、利用者の権利擁護や、利用を援助する仕組みづくりを充実させることも併せて大切なことです。

(8) 孤独感を解消するために地域サロン活動を充実する

現状

高齢者のひとり暮らしに対する心配の声や、高齢者自身が孤独感や不安を抱えているという実態があります。

(懇談会より)

- ・ 高齢者のひとり暮らしが心配で、見守り、声かけが必要。
- ・ 高齢者サロンのような高齢者が気軽に集まれる場所がほしい。
- ・ 子育てのことをもっと気軽に話し合える場所がほしい。

平成 17 年度京丹後市における地域サロン数 (社協の調べより)

高齢者サロン	5 1 地区
障害者サロン	4 地区
子育てサロン	1 4 地区
その他 (区民対象等)	2 5 地区

課題

従来から、地域サロン活動は地区の福祉委員を中心に実施されてきていますが、ひとり暮らしの高齢者や障害のある人の孤独感を少しでも解消するために、地域サロン活動の一層の充実を図ることが必要です。また、安心して子育てができるよう、地域の子育てサロンの充実も必要です。

今後は、これまでの活動実績をベースに、各地域の特性を考慮し、見守りサービスの充実や対象者の拡大、子育て支援など、一層の充実を図ることが課題です。



(9) ふれあえる場がほしい(場所の確保)

現状

子どもから大人まで、地域みんながふれあえる交流の場を求める声があります。

(懇談会より)

- ・ 公民館もなく、子どもや大人、高齢者が交流できる場が欲しい。
- ・ 活動の場所の確保と整備が必要。

(アンケート調査の自由記入欄より)

- ・ 地域の公民館などを利用し、高齢者、子どもたちがふれあう場が持てたらと思います。核家族が増える中、夏休みなど、家族でゲームをするのではなく、高齢者と話したり、遊んだりだれでもいつでも集まれる場があれば、高齢者の生きがいにもつながるのではないのでしょうか。

課題

地域福祉活動を推進するうえで、その活動の場を確保することは重要です。活動の拠点としては、地区公民館や空き家を有効活用するなど、住民の身近で気軽な場所が考えられます。

施設は地域拠点的なものであることから、高齢者や障害のある人が気軽に立ち寄れる場所、子どもと高齢者が交流できる場所など、さまざまな機能が求められており、目的に応じた場所の確保と、既存施設のバリアフリー化や、老朽化している施設の更新など、使いやすさの向上などを図ることが課題です。

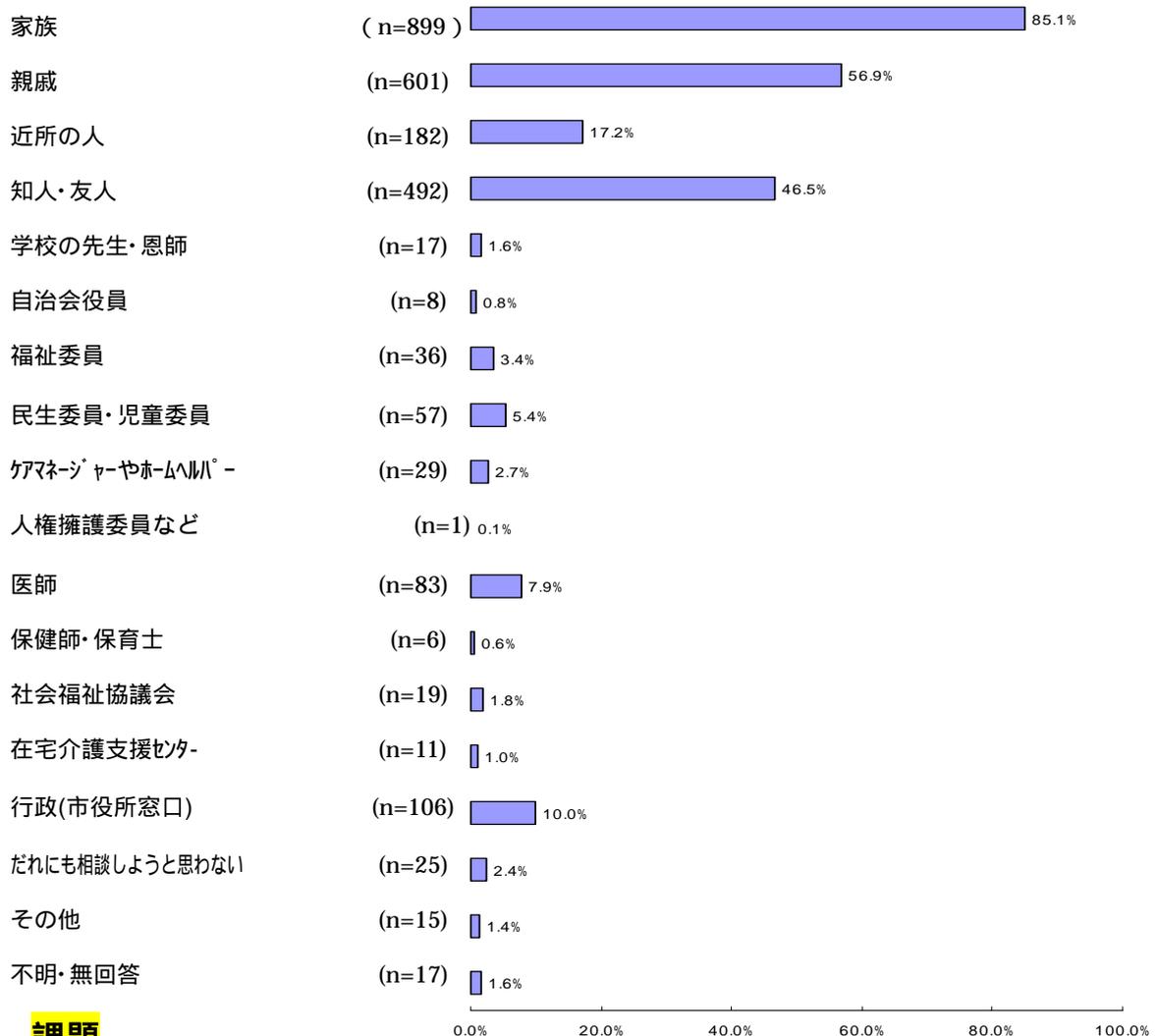


(10) 気軽に相談できる窓口がほしい

現状

アンケート調査によると、「生活で困ったとき誰に相談したいか」については、「家族」が85.1%と最も多く、以下、「親戚」が56.9%、「知人・友人」が46.5%、となっており、親類縁者やよく知った人に相談をしたいという人が多いという結果が出ています。一方、「行政(市役所窓口)」が10.0%、「民生児童委員」が5.4%など、公的な機関などに相談したい人は少なくなっています。(下表参照)

(アンケート調査より)(複数回答可)【N=1057】



課題

現在、いろいろな関係機関でさまざまな相談や支援事業が実施されていますが、市民の利便性向上のためには、地域住民が気軽に相談できる体制を整えておくことが重要であり、身近な相談窓口の設置、さらに情報提供窓口の一元化をめざす取り組みが必要となります。

また、地域福祉の核として、その役割を担っている社会福祉協議会および民生委員・児童委員などについて、さらに住民に周知を図ることが課題となっています。

(1 1) 日常生活に不便のない移動手段がほしい

現状

交通や道路や施設の問題をあげる人が多くあります。

(アンケート調査の自由記入欄より)

- ・ 病院、薬局へは、バスを利用しなければならないので不便である。
- ・ 催し物への参加、日常の買い物など、足の確保が困難。買い物ボランティアなどがあれば良い。
- ・ 高齢になり、車の運転ができなくなったら、田舎では不便で住めなくなる。病院や買い物、多目的に利用できる福祉バスとか、高齢者が気軽に利用できる交通手段の整備を望む。
- ・ 高齢者が増える中、足となる市内を走るバスの便数を増やしたり、また格安で安心してどこへでも出かけやすい交通手段を考えてほしい。

課題

だれもが安心して通院や買い物など、外出・移動できる手段を整備することは、地域福祉を進めるうえでの基盤でもあります。



(12) だれもが安心して活動できる環境がほしい

現状

交通や道路や施設などの生活環境のバリアフリー化を求める人が多くあります。

(アンケート調査の自由記入欄より)

- ・ 障害のある人が、移動しやすい段差のない道路、また、障害者用の施設も不十分なものが多く、障害者も安心して生活できるまちづくりを願う。
- ・ 健康な人の住みやすいまちと、障害のある人の住みやすいまちは同じと限らないので、だれもが住みやすいまちにしてほしい。
- ・ 高齢者・子ども・障害のある人たちに光があたる生活のできる行政を望む。
- ・ 子どもたちが安心して遊べる場・公園などを整備してほしい。

課題

公共交通を含む移動手段の確保や公共施設のバリアフリー化など、安全・安心な生活環境づくりを推進していくことが課題です。

高齢者や障害のある人も外出しやすい環境づくりを進めることは引きこもりなどを無くすことにもつながります。

介護保険制度における住宅改修施策は、需要が急速に伸びており、そのバリアフリー化への関心が高まっています。特にバリアフリー環境に初めて接する市民のために、アドバイスなど適切な情報提供をする必要があります。

市民が憩える場所、子どもが安全に遊べる場所として、自然環境を活かし、遊具などの遊び環境に配慮しながら整備を図る必要があります。また、地域住民の公有財産として、公園などの環境美化に市民一人ひとりが取り組むよう意識を高めることも必要です。

また、これらの場所の安全を確保するため、防犯灯、街路灯などの整備や樹木の管理が必要です。